

科目名	開講期間	必修/選択	担当者名
「統合報告書」で考える会社の強みとあなたの未来	後期	必修	田村 豊

### 【授業の目的と概要】

現在、企業評価の方法は進化を遂げ、これまでの資産評価では企業の実力、潜在的可能性を明確にすることはできない。「統合報告書」は企業の持つ、人、物、金、情報をより総合的に評価し、企業価値を社会に示す有効な手法である。授業では、自分たちの属する企業、団体の「統合報告書」の作成を通じて、企業行動の新たな価値を見だし、企業の価値、組織の役割、人材の役割などを明らかにし確認していく。

### 【授業計画】

※実践的な授業方法…①企業等、②双方向、③実務家教員・実務家、④実地

回数	テーマ	実践的な授業方法
	授業内容の概要	
1	授業の概要と「統合報告書」の説明	
	授業の全体の構成と課題などを説明する。「統合報告書」とその内容の概要などを説明し、今回の講座設置の経営的意味と設置の意義を理解させる。また、初回授業のため、授業運営上の注意を行う。	
2	時代の変化を読み解き、経営に活かす	②
	企業経営にとって、時代の流れを自社の経営にどのように取り込み、経営活動に活かすは重要な課題である。これからの時代の変化や見通しをどのように察知していくのか。外部の講師の方においでいただき、これまでの事例なども含め、ディスカッションを行なう。	
3	「統合報告書」の意義と経営戦略	
	「統合報告書」の成立の背景と企業経営にとっての意味を考える。これまでの企業監査論の歴史を日本と欧米の両方から解説し、「統合報告書」の企業監査の展開における位置づけを行い、「統合報告書」の監査上での役割を示す。	
4	「統合報告書」を読む	②
	発表されている「統合報告書」を参考にして報告書のメリットを考える。「統合報告書」の作成を念頭において、実際に発行されている各社の「統合報告書」を具体的に検討し、報告書の内容と構成を確認していく。受講者は、実際に発行されている報告書の内容がどのような理論と効果を狙って組み込まれているのか、グループで意見を出し合い検討する。	
5	「統合報告書」をつくる	②
	企業ごとの「統合報告書」を作成し、企業情報の示し方を考える。受講者が所属する企業、団体などを例にとって「統合報告書」を作成する。実際にどのような項目を盛り込み、どのような効果を出すか、実際に報告項目をリストにし、それぞれの項目内容のバランスを検討していく。企業成長のこれまでと今後の方向性なども念頭におき、どのような報告内容が妥当でありかつ効果的なのか、グループで意見を出し合い検討する。	

6	報告書の発表と授業のまとめ	②
	受講者が作成した「統合報告書」を相互に発表し、報告書の成果を確認する。受講者同士の意見を交え、「統合報告書」の内容上の特徴、また改善点などを講評し、「統合報告書」の今後の課題などを整理する。	

**【授業の到達目標】**

受講を通じて、各受講者がそれぞれの企業、団体の備えている潜在的競争力、顕在的競争力、今後の課題などを、一定の様式を利用して、客観的に分析できる。

**【成績評価方法】**

受講者が提出する課題、授業参加中に示す積極的な姿勢、授業時間外学修などを勘案し、総合的に判断していく。

**【テキスト・参考図書】**

授業時間中に紹介するとともに、各回の授業の際にその都度、資料を配付する。